相模原市こども・若者支援課からのお知らせ

相模原市では、「子どもの居場所づくり」を応援する後援制度を設けています。後援を取得すると、子どもの居場所づくりの活動に関する賠償責任補償、傷害補償保険の対象となったり、教材の無償貸与などの支援を受けることができます。

団体要件	共通	児童福祉を目的としていること
活動要件	共通	・活動の際、3名以上の構成員がいること ・団体の連絡先及び担当者を定めていること ・利用者の名前、連絡先を登録していること ・個人情報を取り扱う際は、個人情報の保護に関する法律、相模原市個人情報保護条例等の関連法令を遵守すること
	子ども食堂	・毎月おおむね1回以上実施すること ・衛生管理上必要な調理設備が整っている場所において活動していること ・構成員の中に食品衛生に関する知識を有する者がいること ・アレルギー対策を講じていること
	無料学習支援	・毎月おおむね1回以上実施すること ・学校教育課程に沿った支援を行うこと
	その他 子どもの居場所づくり	・毎月おおむね1回以上実施すること ・子ども食堂及び無料学習支援以外で、子どもの居場所づくりを行うもの

※「相模原市こども・若者未来局に関する事業の共催等名義使用承認取扱要綱における承認の条件について」より抜粋

✔子どもの居場所づくりに対する相模原市の施策について

相模原市こども・若者支援課　中央区中央2-11-15 市役所本館4階
TEL:042-769-8289 FAX:042-754-5112

✔掲載内容に関する問合せ
✔新規立上げ、担い手募集、ボランティアや寄付の申し出、利用希望の相談など

問合せ先

子どもの居場所総合相談窓口

中央区富士見6-1-20 あじさい会館2階
相模原市社会福祉協議会 中央ボランティアセンター内
TEL:042-786-6181 FAX:042-786-6182
子どもの居場所相談専用
svc4@sagamiharashishakyo.or.jp

［発行］　相模原市
［作成］　社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会
［発行日］　2021 年 3 月 発行

子どもの居場所 事例集

相模原市
社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会
2021 年 3 月 発行

はじめに

相模原市社会福祉協議会が「子どもの居場所創設サポート事業」を市から委託されて丸3年が経ちました。3年前は市内に20数か所だった子どもの居場所も今では60か所を超え、様々な人が、それぞれの場所、内容で居場所の活動をしています。子どもたちがほっとできる雰囲気で迎えられ、おいしいごはんや、安心して勉強できる環境、子どもたちを「いつも見ているよ」という優しいまなざしがあふれる場所がたくさんできたことに、改めて市民の皆さんの大きな力を感じ、今後もたくさんの居場所が立ち上がることを楽しみにしています。

しかし、昨今の新型コロナウイルス感染症による影響で、居場所の最大の特徴である、「集まって食事をする」「みんなで楽しく学ぶ」「膝を突き合わせておしゃべりする」などの、人と人との触れ合いを著しく制限せざるを得ない状況が続き、居場所の継続についてそれぞれが悩む日々でもあります。そのような中でも、居場所に集ってくる子どもたちのために、様々な工夫を凝らして活動を再開した団体がいくつもあり、その熱意やノウハウを共有できれば、という想いで今回の事例集を発行いたしました。新しい生活様式の中で、「何かやってみたいな」という想いのある方への一助になれば幸いです。

目次

はじめに/目次 ・・・ 1

安心・安全な居場所づくり ・・・ 2

紹介事例

1、緑 食 ソレイユにこにこ食堂（ソレイユさがみ） ・・・ 3～4

2、中央 食 みんなの食堂ふじみ（中央公民館） ・・・ 5～6

3、南 食 にこカフェ（相模原すみれ園） ・・・ 7～8

4、緑 学 大島学習教室（大島団地） ・・・ 9～10

5、中央 学 さがみはら みらい塾（矢部） ・・・ 11～12

6、南 食 学 てらこや食堂ラッキーズ（相模大野） ・・・ 13～14

相模原市 子どもの居場所マップ ・・・ 15～16

子どもの居場所運営者座談会 ・・・ 17～20

コロナに負けるな！今、できることを探して ・・・ 21～22

安心・安全な居場所づくり

～新しい生活様式に合わせた感染予防策～

厚生労働省の”新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮して子どもの学習・生活支援事業を実施するためのガイドライン”では、「3つの密（密閉、密集、密接）を避ける」、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗い」が重要とされています。

事前の準備

子どもの居場所相談窓口にご相談ください！

- 情報の収集 … 厚労省のガイドライン、各団体発行の参考資料など
- 開催目的や方法の見直し … 会場、時間帯、屋外開催やオンラインの活用など、他団体の状況も参考にしながら再検討する
- 関係者間で情報や思いを共有する … 参加しないという判断も尊重を
- 保険に加入 … 保険期間や補償内容・対象者を確認する
- 関係機関への連絡 … 地域の関係者や協力者などに再開のお知らせを
- 連絡先リストの作成 … 万が一の際に慌てないように、連絡する順番や担当者をあらかじめ決めておくと安心
- 担い手の動きや役割分担の確認 … なるべく少人数・短時間など、負担の少ない形で「三密」を防ぐ工夫をしよう
- 感染防止対策品の準備 … マスク、フェイスガード、消毒液、手洗いせっけん、紙タオル、非接触型体温計、除菌シート、パーテーション、使い捨て手袋、注意事項の掲示などを必要に応じて準備

開催当日

- 体調管理の徹底 → 担い手・参加者の検温、本人または同居家族に2週間以内の発熱や風邪症状がある場合は参加しないなど、ルールをわかりやすく周知する（会場掲示、チラシに明記するなど）
- 受付では → 参加者の氏名・連絡先の把握（万が一の際の連絡先として、保険対応にも必要）ペンなど文具類の複数用意、受付簿から受付カードへの変更、記入台を複数に分けて設置するなど
- 手洗いの徹底 → せっけんを使う、タオルの使い回し厳禁（紙タオルを使う）、トイレや部屋の移動・休憩時間など「場面の切り替え」では手洗いの呼びかけを、手洗い方法のポスターを貼るなど
- 食事の場面 → 黙って食べる（黙食）、同居家族以外はテーブルを分ける、換気をする、参加人数を制限する、時間を分ける、おやつは持ち帰りに、会食形式からお弁当に切り替えるなど
- 人と人との距離 → 受付や休憩など人が集まりやすい場面に注意、床に目印をつける、パーテーションの活用、参加人数を制限する、時間を分ける、広い部屋に変更する、部屋を複数に分けるなど

相模原市こども・若者支援課では、子どもの居場所運営団体に、消毒液やマスク等の感染防止対策に必要な物品を配布しています。

緑区

紹介事例−1

子どもたちに寄り添い見守る ソレイユにこにこ食堂

現在、どんな活動をしていますか

コロナの影響で、作った料理をお弁当箱に詰めて持ち帰り可能にしています。月に1回の開催ですが、毎回50名程度が持ち帰り、10名程度が会場内で食事をして行きます。受付での検温や手指消毒を徹底していますが、本来の目的である「居場所」としての活動ができていないのが悩み。会場は広く、距離をあけて座ることが出来るので、早く状況が良くなり、大学生ボランティアが子どもたちと勉強や遊びができるようになることを願っています。

活動にあたっては、相模原市のSDGs助成金を申請し、新たにアクリルパネル10台、段ボールパネル10台を購入しました。また、こども・若者支援課から消毒用アルコールや液体せっけん、お弁当容器を提供してもらっています。購入するとけっこうな負担になるので、とても助かっています。

子ども食堂を始めたきっかけは

私が代表を務めるNPO法人サーラが主催した「夏休みの子ども事業」で、子どもたちに一番楽しかったことを聞くと「お昼が美味しかった！」との言葉がありました。みんなが笑顔で楽しく食事をし、おかわりしていた姿を思い出し、通年で子ども食堂をやろうと思いました。

会場が橋本駅前なので、保護者が仕事などで帰りが遅い時でも、安心して迎えに来られます。一人で夜まで過ごす子どもが、宿題や遊びなどありのままにゆっくり過ごせる「居場所」となるよう、じいじ・ばあばとして子ども達を見守って行ければと思っています。

「居場所」とは、子ども達が自分の悩みや困りごとを打ち明けられ、他者と関係性を築ける場所だと考えています。

「子ども食堂」を、子ども達の悩みに寄り添う問題解決のためのベースとし、将来的により多くの子ども達を貧困の世代間連鎖から救うことや、共働きやひとり親など働くお母さんたちの支援も目的としています。

担い手の皆さんの想いは

栄養バランスや、手作り（ばばたん）の味を感じてもらえるよう、心をこめて調理しています。スタッフみんながこの活動が楽しいと言っており、子どもたちが美味しそうに食べている様子を見て、「石井さん、この活動を始めてくれてありがとう」と言ってくれます。子ども食堂を始めたころ、大根サラダを「おいしい！どうやって作ったの？」と言われ、作り方を教えると「お母さん、うちでも作ってね」と言ってくれた子がいました。好きなおかずやご飯を、お代わりしてくれる様子を見るのが、スタッフの喜びとなっています。

今は、保護者だけがお弁当を受け取りに来るため、子どもの顔を見ることができない寂しさも感じます。一方で、仕事の後、保育園にお迎えに行ってから、電車に乗って食べに来るのはとても大変なので、仕事の帰りにお弁当を受取り、自宅でゆっくり食べられるのはとても助かるとの声も聞かれます。どちらにしても、喜んでもらえるのは励みになりますね。

他の団体からの支援・協力について

子ども食堂を始める前からの他組織・団体とのネットワークを生かし、食材を提供してもらったり、無償配布を希望する世帯への情報提供なども行っています。コロナの影響で、困窮世帯は確実に増えています。困ったときに気軽に相談してもらえる、頼ってもらえる場になれば良いと思っています。

活動を始める時に、相模原市（こども・若者支援課）の後援を得ているので、企業からお肉を提供していただくことができました。また、相模原市社会福祉協議会からは、ボランティアセンター経由で市民の方から寄付された食材（野菜、お菓子等）の提供や、大学生をはじめとしたボランティアの紹介、民間の助成金制度などの情報提供もあります。近隣の方からも、漬物や野菜、お米、味噌などを寄付していただいたり、市内のフードバンク団体（フードコミュニティ、NPO法人サテラ）からの食材提供など、さまざまな方からのご支援、ご協力があり、とても感謝しています。

インタビューに答えてくれた人 ／ ソレイユにこにこ食堂実行委員会代表の石井トシ子さん［2020年11月取材］

「NPO法人男女共同参画さがみはら（サーラ）」と「ソレイユにこにこ食堂実行委員会」が共同で実施しています。子ども食堂を一つの居場所とすることで、子どもたちの悩みに寄り添っていくことができれば…と思っています。ボランティアも募集中。皆様を笑顔でお待ちしています！

開催日時	毎月１回　水曜日　17:00〜20:00
開催場所	ソレイユさがみ（緑区橋本6-2-1）
参加費等	子ども100円　15歳以上300円
運営団体	ソレイユにこにこ食堂実行委員会 NPO法人男女共同参画さがみはら（サーラ）
連絡先	080-3543-1775（石井）

中央区

紹介事例-2

温かい食事がつなぐ、地域の連帯感
みんなの食堂ふじみ

コロナ禍での活動についてお聞かせください

緊急事態宣言が解除され、公民館が利用できるようになった時、スタッフに「こういう時だからこそ、やらないと」と声をかけました。反対は出ず、みんな声をかけられるのを待っていたのかな。とはいえ、活動再開への不安もあったので、公民館の担当者とよく話し合い、今後は受付で学校名と学年も必ず書いてもらうことに。住所や電話番号は書けない子もいるけれど、学校と学年ならみんな書けるでしょ。学校と学年がわかれば、何かあった時にも連絡が取れると考えました。

また、公民館から非接触型体温計を貸してもらい、なるべく密を防ぐために、空いている部屋を使って良いと言ってもらいました。公民館の協力があることで、宣言解除後にすぐに活動を再開できたと思います。

今は、受付時の検温と手指消毒、マスクを着用してもらっています。スタッフのご家族が手作りマスクを寄付してくれたので、受付に置いて、マスクを忘れた子や欲しい子に分けてあげて喜ばれることも。また、公民館の規定で、部屋の定員の半数までしか入室できないので、イスを減らし横並びで食べるようにしたり、換気にも気をつけています。

立上げのきっかけは

ある会議の時に、当時、富士見小PTA会長だった小澤さんに、私が声をかけました。お互いに存在は知っていたけれど、きちんと話すのは初めて。でも、子ども食堂について書かれた新聞記事の切り抜きを見せて、「この地域でもやりたい。協力してもらえる？」と言うと、「いいですね。ぜひやりましょう！」と二つ返事で引き受けてくれました。小澤さんには、今もチラシの作成など事務的なことを担当してもらっています。

初回は、2016年の夏休み。お昼ご飯をみんなで食べようと企画し、スタッフと子ども合わせて10人ほどの参加でした。うわさを聞いて、近所のご高齢の方もお一人参加してくれたのが嬉しかった。子どもだけでなく、お年寄りの方も気軽に食べに来てくれて、みんなで子どもたちを見守る場になれば良いなと思ってます。

活動を続ける中で、苦労したことは

会場探しが一番苦労しました。いくつかの会場を経て、中央公民館を定期的に使えるようになって、やっと安定して活動ができるようになりました。

それと、来てくれる人に情報（急なお休みや時間変更など）が行き届かないことが、悩みといえば悩みです。スタッフの一人が、参加してくれるママたちとLINEを交換したり、ママたちのネットワークによる口コミも頼り。ここで会って仲良くなったママ同士の話を聞いたりすると、居場所になっていると感じて嬉しいですね。

嬉しかったことや印象に残っていることは

子ども達に、「おいしい！」と言われた時が、やっぱり一番嬉しい。言わなくても、笑顔で食べているのを見てたらわかるけれど。おかわりしてくれることも喜びです。

「今日はご飯は食べないけど、みんなの顔を見に来た」と言って来てくれた子がいて、とっても嬉しかった。ママたちがここで仲良くなって、お下がりのやり取りをしたり、出産したママのお見舞いに行ったなどの話を聞くと、やっていて良かったなぁと感じます。

以前、大根の皮のサラダを出した時に、「おいしいからレシピ教えて」と若いママに言われて。いただいた素麺をサラダにした時も、「家でもやってみよう」と言ってくれた。前の月にスタッフで相談してメニューを決めているので、好評だとやっぱり嬉しいですね。

差し入れのお菓子とマスク

活動を始めて3年目くらいから、色々な協力も増えてきました。今では、折り紙の作品や手作りマスク、お菓子、お米、果物、卵などいろいろ届きます。当初の立ち上げメンバーが、家庭の事情などで活動をやめてしまったり、都合がつかず二人で運営したこともあったけれど、最近はボランティアも増えて、安定して運営ができています。お互いに意見を言い合ったり、相談したりの良い雰囲気のおかげで、長く続けられたのだと思います。

インタビューに答えてくれた人 ／ ボランティアリーダー 中島冨士江さん ［2020年11月取材］

「みんなの食堂ふじみ」は、子どもたちに生活の基本である温かい食事を提供することで安心感を、また大人にも参加してもらうことにより、地域とのつながりや連帯意識を感じてもらうための場所です。

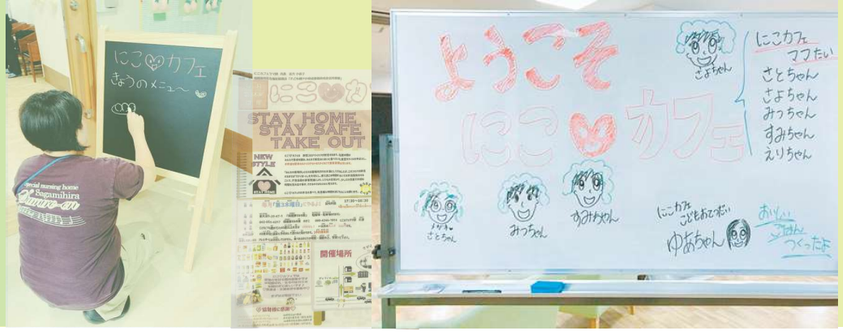
開催日時	原則第１・３木曜日　16:30～19:00
開催場所	中央公民館（中央区富士見2-13-1）
参加費等	子ども100円　高校生以上300円
運営団体	みんなの食堂ふじみ
連絡先	042-810-0001（小澤（こさわ））

南区

紹介事例−3

食堂

みんなが笑顔になれる場所
にこカフェ



コロナ禍における活動について

会場に集まっての食事ができなくなったので、今は月に1回お弁当の配布をしています。コロナのせいでいろいろな制限がかかりますが、できないなりに何とか考えてやっています。

会場として高齢者施設をお借りしているので、スタッフの健康管理・健康観察を徹底し、調理する人数も減らし、なるべく少ないスタッフで活動しています。他の活動で入手した「コロナ禍におけるガイドライン」を活用し、特に食事作りの際の注意事項などはとても参考になっています。

みんなで食事をする代わりに、子どもたちには「ありがとうスタンプカード」を配り、お家のお手伝いをしてスタンプをためると次回のお弁当配布の時にプレゼントがあるよ、

という企画をやっています。みんなで集まって過ごすことはできないけれど、保護者や子どもたちがお家で少しでも笑顔で過ごせるように、と考えました。

子どもや地域の変化を感じることは

利用する人が若干増えてきたと感じます。働いているママさんの間では、お弁当は量や質に関わらず、あるだけでありがたいという声があります。月に1回でも、家事負担が減り家族の時間が増えたことで、余裕をもって子どもとコミュニケーションが取れる。今まで子どもが食べなかったものも、お弁当に入っているので食べるようになったなど、嬉しい声も聞かれます。

様々なことが自粛ムードとなっている中ですが、お弁当の受け取りの時にお互い声を掛け合ったりと、月に1回、元気なことが確認できる場であり、担い手も利用する人たちも「笑顔になれる場所」です。分かる範囲で経済的に困っていると思われる世帯は本当に一握りですが、そういった人も地域で暮らしていることがわかります。なんとなくの声掛けから、徐々に関係ができて利用し始めた時よりも会話が増えて来る。言葉は少なくても、お弁当を受け取りに来てくれると本当に嬉しいです。

担い手の皆さんの想いをお聞かせください

子どもの好き嫌いがなくなるようにと願って調理をしています。食育を自分で学んでから、お母さんのお腹にいる時から食べるものは大事であることが分かり、子どもたちにも良いものを食べてもらいたいと思っています。

会場の高齢者施設の職員さんも、子ども食堂の立ち上げから関わっています。子ども食堂を通じて、施設と民生委員・児童委員とのつながりができたことで、地域の話が聞けるようになり、より地域の中での施設の役割について考えるようになったそうです。

関わっている人は、子どもたちのために何かしたい、という気持ちのある人が多いですね。活動中は、スタッフ同士も「ちゃん」付けで呼び合うことにしており、自分たちも子どもの目線になることを心掛けています。

活動を始めたきっかけは

この地区の民生委員・児童委員だったことがきっかけです。最初は、市社協の職員さんから打診があり、もともと調理をやっていたことから、やってみようと始めました。やってみたら、本当に楽しい！アイディアを持っている人たちがいろいろ持ち寄って、子どもたちに喜んでもらえる場を工夫して作っているので、打合せの時からわくわく、楽しくやっています。とても楽しいので、月1回じゃなくもっとやりたいぐらいです（実際には仕事などで忙しくできないけれど…）。特に、子どもが楽しそうにご飯を食べるのを見るのがとても嬉しい。今は、子どもたちがご飯を食べるところを見ることはできないけれど、またそういった場ができるようになることを願って活動を続けています。

寄付の野菜

活動の中で嬉しかったことは

近所の方がいろいろな寄付をくださいます。野菜などの食材やお米、お金の寄付もありとても助かっています。寄付のおかげで、クリスマスにはみんなにケーキを用意することができました。

また、会場である高齢者施設は24時間やっています。「にこカフェ」に来た人たちが、少しでも施設を身近な「駆け込み寺」のように思い、頼りにしてくれるようになると良いなと思います。最近、地域の高齢者支援センターが紹介してくれて、近所のお年寄りも利用してくれるようになりました。地域の中で、そういったつながりが増えて行くことがとても嬉しいですね。

インタビューに答えてくれた人 ／ にこカフェママ隊の杉原郊子さん［2020年11月取材］

たのしくごはん　たべようよ！学校の後で一人ですごす子どもたちや、子育て中のママ・パパのための居場所です。お待ちしていま〜す♡

開催日時	第３木曜日　17:00〜19:00
開催場所	相模原すみれ園（南区東大沼3-29-47-1）
参加費等	18歳までと60歳以上無料　おとな300円
運営団体	にこカフェママ隊
連絡先	090-4246-1914（杉原）

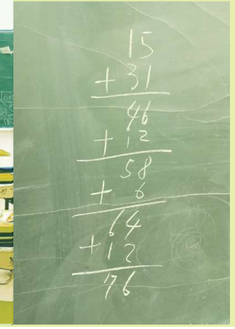
緑区

紹介事例-4

学習

20年続く外国につながる子どもたちの居場所

大島学習教室



※新型コロナウイルス感染症流行前の活動の様子

コロナ禍での活動は

緊急事態宣言後、6月までは活動できませんでした。この活動で、自治会館を20年くらい使用させてもらっているので、自治会のご好意で6月には会場を貸してもらえるようになり、活動を再開できました。

再開後は、机の間隔をあけて配置し、着席は机1台に2名まで。窓や入り口ドアは開放しています。入り口での消毒と事前の検温を徹底し、必ずマスクを着用してもらいます。コロナ前よりも、参加者の出欠席を丁寧にとるようにしたり、保護者の連絡先リストを作成し、何かあった時に各家庭にスムーズに連絡できるような体制を整えました。

活動を再開する時に、万が一、参加者にコロナの陽性者が

出たら活動は停止し、その後心配がなくなったら再開すると決めました。子どもたちも保護者も特に変わった様子はなく、再開後も今までと変わらず活動できています。

活動を始めたきっかけは

25年ほど前、勤務していた学校で外国人支援の教室があることを知り、そこにボランティアに行くようになりました。その後、外国籍生徒の多い学校に赴任し、そこの生徒を対象に「大島学習教室」を立ち上げました。立ち上げて20年くらいになります。市内の団地でこういった教室をやっているのは、大島学習教室のみだと思います。

参加者を外国籍の子どもに限っているのは、今でも「日本人と一緒だと緊張する」という子がいるから。残念ながら、学校でいじめられてしまう子もいます。ここが、本音が言える場となれば良いですね。日本の子どもたちと混ざる場があっても良いと思うけれど、これ以上回数を増やせないので、できていません。

子どもたちは、親同士も仲が良くトラブルは少ないと感じます。参加者の年齢層は、その年によって変わりますが、最近は未就学児も増えています。中学3年生の参加者が少なくなっていますが、受験もあるので、有料の学習塾に通える子は通っているのだと思います。

長年活動をされていますが、今後については

夢は、この場所を教え子が引き継いで続けて行ってもらうこと。外国人の子どもたちが、日本人と変わらない道を選べるようになると良いと思います。教員になる子がいないか声をかけているんですが、本人たちがなれると思っていないところがある。外国人（特にアジアの）が、学校の先生になっていれば、外国籍の子の悩みの相談などにものれると思います。

もっと混ざってやって行くには、差別をなくすことが必要です。子どもの頃から国籍に関係なく混ざって過ごす環境があれば、自然と関わることが出来るようになるでしょう。大人に対しては、自国文化の継承への配慮もできたら良いですね。

活動の中で嬉しかったことは

大島学習教室で教えていた子が30歳を過ぎ、その子どもが教室に来るようになったこと。初めの頃は落ち着きがなく騒いでしまっていた子が、1年ちょっと継続して通って来ることで、少しずつ落ち着きはじめるなど、成長が見られることも嬉しいですね。

それと、自治会のご好意で会館を使わせてもらっていて、場所代も光熱費もかからず、教材や資料などを置かせてもらえているのは、とてもありがたいことです。以前、自治会の総会にも呼ばれ、教室の活動について話をさせてもらいました。活動への理解があることは、とてもありがたく思っています。

また、地域のパン屋さん『パンパティ』から、毎回パンの寄付があります。活動終了後に一人2個持ち帰って良いことにしていて、帰る前にじゃんけんをして勝った人から好きなパンを選べます。様々な種類のパンが届くので、子どもたちもとても楽しみにしています。お店からパンを運んでくれるのは、フードバンク活動をしている別団体のボランティアさんで、毎回、参加人数分のパンを教室まで届けてくれるので、助かっています。

インタビューに答えてくれた人 ／ 大島学習教室代表の吉田惠一さん［2020年12月取材］

20年ほど前から、外国につながる子どもたちの日本語習得や学校の宿題・復習、高校受験などの学習支援を行っています。講師は、元教員や地域のボランティアです。外国につながる子ども達は、学習面だけでなく、保護者や生活全般についての支援が必要なことも多く、課題はたくさんあります。講師や運営のボランティアも募集していますので、ぜひ一度見学に来てください！

開催日時	毎週木曜日　19:00～21:00
開催場所	県営大島団地集会所（緑区大島11）
参加対象	外国につながりのある小学生・中学生
運営団体	大島学習教室
連絡先	042-784-6914（吉田）

中央区

紹介事例−5

学習

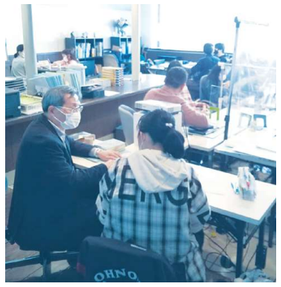
生徒1人に講師1人の個別対応
さがみはら みらい塾

コロナ禍での活動は

3月にご高齢の講師の方から「しばらく参加を遠慮したい」という声があり、活動を休止することにしました。少し状況が落ち着いた頃、「そろそろどうですか」と講師の皆さんに声をかけたところ、全員から活動可能と返事があり、6月1週目から活動を再開しました。

活動再開にあたり、ビニールシートとパイプでパーテーションを手作りし、座席の配置を変え、消毒や検温などできる限りの対策を考えました。法人として手作りマスクの寄付をいただいて販売もしているので、ありがたいことにマスク不足もありませんでした。騒ぐような子もいないので、静かに落ち着いた環境で勉強できています。

保護者は、3月には「心配だから休ませます」と言っていたけれど、休校で子どもが3か月も家にいたのが大変だったのか、6月には「ぜひお願いします！」に変わっていて。自宅以外に居場所があることの大切さと、自宅で勉強する環境を作ること（やる気も含め）は意外と難しいのか、「待ってました！」という方が多かったように思います。



緊急事態宣言中にはオンラインでの開催も検討したのですが、機材の問題で断念しました。こちらには機材・環境があっても、子どもの家庭にないとできない。今後、何らかの事情でオンラインを希望する子どもやご家庭があったら対応できるよう、準備はしています。

なぜこの活動を始めたのですか

もともとNPO法人として障がい者支援事業をしていて、もっと年齢の低い頃から適切な支援を受けていれば…と思うことがよくありました。小・中学校で環境になじめず不登校になって、30歳を過ぎて親が慌てても遅いのです。早いうちに受け入れてくれる場の必要性を感じ、何か子どもの支援ができないかと思っていた中で、橋本地区で「相模原みのり塾」を運営している小布施代表とお話しする機会があり、「場所があるなら、講師はすぐ集まるし、簡単ですよ！」と背中を押されて…実際はそんなに簡単じゃなかったけれど（笑）、何とかやってます。

みらい塾の特徴は

子どもの反応を見ながら、その子、その子の進み具合に合わせてマンツーマンで勉強を教えているのが強みです。学校には通えない不登校のお子さんも、ここには毎週通ってくれている。発達障がいのお子さんは、他の子どもがいない午前中に受け入れており、静かな環境で落ち着いて勉強ができるようにしています。

子どもたちは、ここに通うようになって明るくなったそうで、保護者からとても感謝されます。特に、午前中に受け入れているお子さんは、ここに通ってから、学校でも落ち着いて座れるようになったと。「考え方」を教えてくれる講師の教え方が良かったのでしょう。勉強がわかるようになったことで自信が付き、学校のテストで平均点以上を取れるようになりました。

ここで「人」に慣れることで、集団の中に入ることが怖くなくなる。心を許せる人がいることに気付くと、子どもは変わります。自己肯定感の低い子どもが多いですが、時間をかけてじっくり話を聞いてあげて、その子のペースに合わせることが大切です。そうすると、その子も周囲への接し方・態度がわかって来るのだと思います。

講師ボランティアさんに聞きました

［講師のＩさん］

世の中にたくさんある解決すべき問題の中で、「教育」が一番大切と思っていました。ボランティアは初めてだったけれど、ネットで学習支援の講師募集をしている所を調べて、近所だったので申し込みました。

私は教えるプロではないので、学校と違う事を教えて混乱してしまわないように、基本的にはその子のやりたいことをやってもらうようにしています。本人がどう思っているかはわからないけど、毎週来てくれているので、いやではないのかな？少しでもこの時間が楽しいと思ってくれたら嬉しいです。

［講師の大学4年生Fさん］

3年前から「相模原みのり塾」でボランティアをしています。そこの紹介で、先月からこちらで理科と国語を教えています。英語教員志望で大学院に進学するので、まだしばらくはこの活動を続けるつもりです。わからなかったところを教えて、「わかった」と言われた時や「成績が上がった」と聞くととても嬉しいです。

差し入れのお菓子

インタビューに答えてくれた人 ／ NPO法人デジタルコンテンツ研究会の西村紀子さん［2020年11月取材］

「自分の未来は自分が作る」をモットーに自分らしい未来を築くための基礎をつくるお手伝いをします。経済的な問題や、集団が苦手で塾に通えない子ども達を支援します。それぞれの教科毎に、生徒1人に対して講師1人の個別対応を基本とします。不登校の相談にものります。電話で予約してからご来所ください。生徒さんも講師さんも募集中です。
よろしくお願いします！

開催日時	毎週土曜日13:30～17:30　※午前中も受入れ可
開催場所	デジタルコンテンツ研究会　矢部研修所（中央区矢部4-4-9）
参加対象	小学４年～中学３年生
運営団体	NPO法人デジタルコンテンツ研究会
連絡先	042-711-7454（西村）

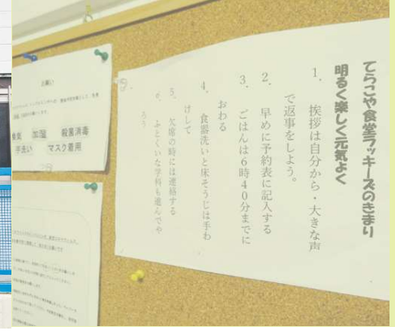
南区

食堂

学習

紹介事例−6

毎日あたたかいご飯を食べて欲しい
てらこや食堂ラッキーズ



なぜ毎日やろうと思ったのですか

たまたまテレビで子どもの貧困問題を知り、長年働いて貯めたお金を使って「子ども食堂」をやろうと思いました。食事は毎日のことだから、どうせやるなら毎日温かい食事を食べさせたい。ところが、アパートなどは不特定多数の子どもの出入りがNGと言われ、毎日使える会場が見つかるまで半年ほどかかりました。

その後、色々なところのご協力があり2019年11月7日に「てらこや食堂ラッキーズ」をオープン。スタッフは、全員口コミや紹介のボランティアで、土・日・祝日を除く毎日午後4時半から6時までが宿題などを手伝う学習支援、6時から7時までが夕食と後片づけ。大学生を中心とした学習支援スタッフと、主婦や元料理人などの食事支援スタッフが、子どもたちと楽しい時間を過ごしています。挨拶などの基本的生活習慣や、健康面の支援も行っています。

2020年は4月中旬からコロナで活動を休止しましたが、状況が落ち着いてきた6月には活動を再開。学校休校による影響もあるのか、体重が減っている子が多く、ここの必要性を再確認しました。

また、自分の年齢も考え、自分が動けなくなっても活動が続くようにNPO法人を設立しました。食堂を始めてから今まで、運営費のほとんどを自己負担していますが、少しでも長く継続するためにも、今後はNPO法人の会費や寄付金、各種助成金などを活用して行きます。最低でも、今登録している子どもたちが中学を卒業するまでの6年間は、何としても活動を続けるつもりです。

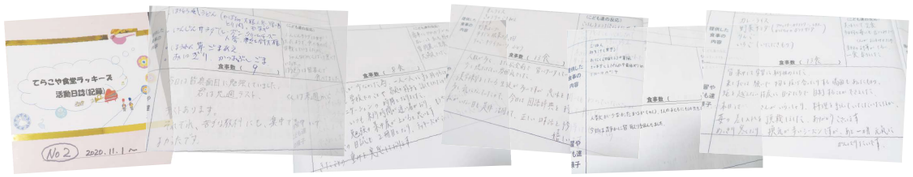
食事スタッフの村田さんと大塚さん

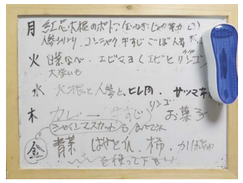
実際にやってみてどうでしたか

始めたころは、必要としている子どもに情報を届けるのに苦労しました。今では子どもの登録が13名、ボランティア登録は20名を超えています。コロナによる休止中と年末年始を除く毎日開催で、今のところ参加ゼロの日はありません。食事スタッフは、隔月でミーティングを行っていますが、今後は学習スタッフも定期的なミーティングを行い、子どもの様子や教え方などを共有したいと思っています。

参加は事前予約制で、毎月の予定表を壁に貼りだし、参加する日に○をつけてもらいます。毎回、食事スタッフ2名と学習スタッフ2名以上、子どもは3〜8名くらい。コロナ前よりも確実に参加者が増えています。食材を無駄にしない為にも、参加人数分の食事を作るので、急なキャンセルや予約なしの飛び入りが困りますが、食事スタッフの工夫で何とか乗り切っています。

コロナ対策は、開始前のぞうきんがけや消毒を徹底してもらっています。玄関に体温計と消毒液を用意し、窓を開けて常時換気。今は寒いので食事中も上着を着ているけれど、仕方ないですね。





やっていて良かったこと、嬉しかったことは

フードバンクや地域の方からの寄付があり、とても助かっています。広報にも力を入れているので、タウンニュースやショッパーなどの地域情報紙や、TVKの取材も受けました。そうした記事でここの活動を知り、現金の寄付を届けてくれた方も。お米や野菜、果物、お菓子などの寄付もあり、応援してもらっていると感じます。

子どもたちは、親の仕事や家庭環境などにより、放課後の学習や過ごし方に問題があったり、不規則な食事で体格が小さかったり。当初は勉強嫌いで落ち着きのなかった子どもたちが、次第に落ち着いて勉強するようになり、学校の成績も向上し、態度も明るくなって楽しそうに過ごしているのを見ると、とても嬉しくやりがいを感じます。

食事スタッフの村田さんと大塚さんに聞きました

村田さん:もともと関わっていた別の子ども食堂が、コロナで活動休止になってしまいました。そんな中、子ども食堂運営者の情報交換会で石井代表に声をかけられて。今は、金曜日の担当として大塚さんと毎回10食前後の夕食を作っています。

大塚さん:楽しいですね。作った料理を「おいしい」と食べてもらえると嬉しいし、こんなことでも何かの役に立てているのかな。誘ってくれた村田さんに感謝です。

村田さん:石井代表からは、その日に使って欲しい食材を知らされるだけなので、私たちの担当する金曜日は、在庫一掃の日です(笑)。土日は休みだから、期限の迫った食材や野菜など、余っているものを使い切るように工夫して。子どもたちは「初めて食べる」と言いながらもよく食べてくれて、知らない食材や料理を知ってもらうのも良いかなと思ってやってます。

インタビューに答えてくれた人 ／ NPO法人てらこや食堂ラッキーズ代表石井とし子さん[2020年12月取材]

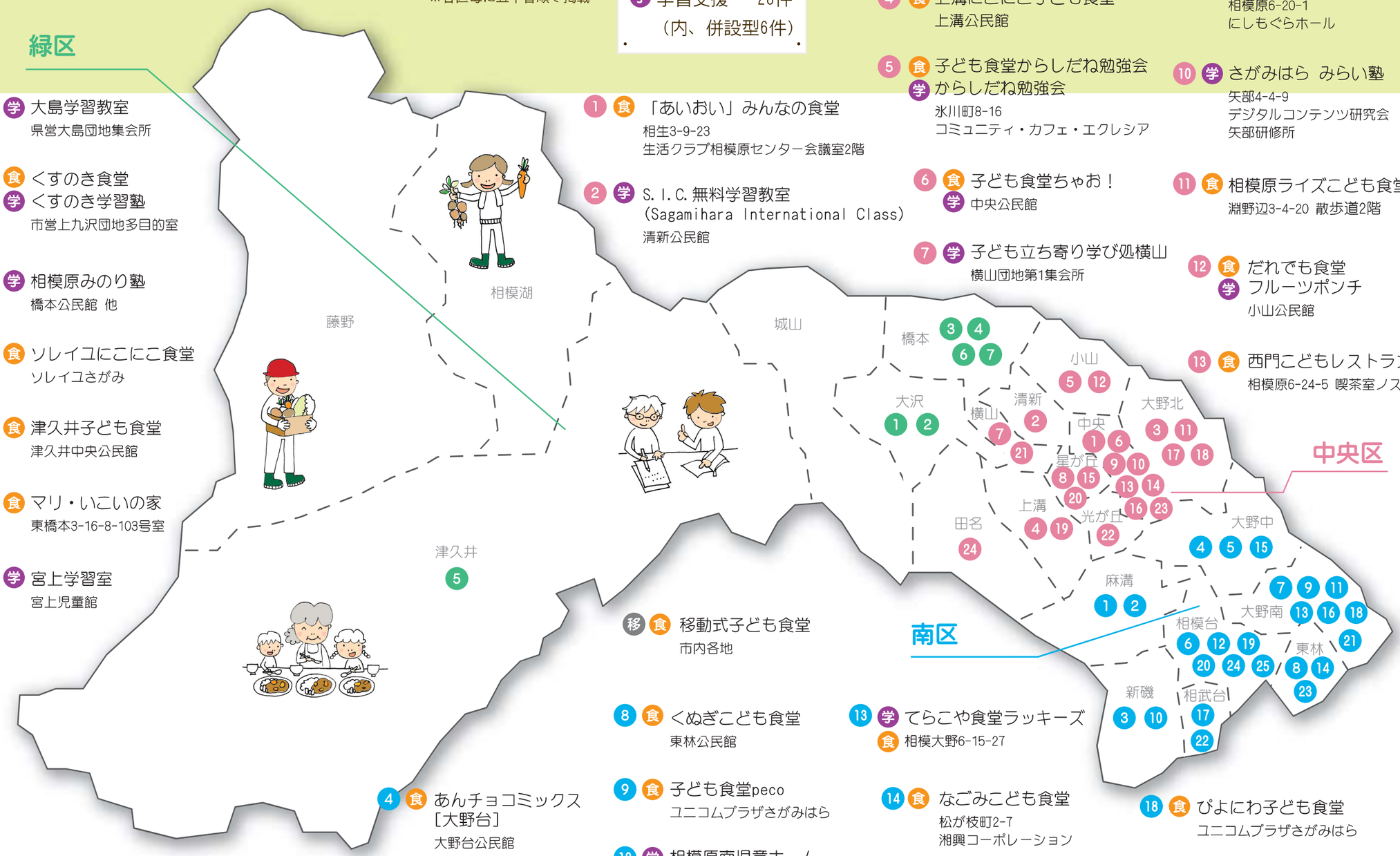
子どもたちの宿題や勉強の手伝いをしたい。一人で食事をしている子どもたちを仲間にして、楽しい時間をすごしたい。あたたかい手作りのお料理を、毎日食べてもらいたい…ラッキーズはそんな思いで運営しています。子どもの登録も募集中です。ご相談ください。

開催日時	月曜日から金曜日（週5日）16:30〜19:00　※祝日は休み
開催場所	南区相模大野6-15-27
参加費等	無料（要予約）
運営団体	NPO法人てらこや食堂ラッキーズ
連絡先	090-2324-3394（石井）

相模原市 子どもの居場所マップ

2021年3月現在
食 子ども食堂 35件
学 学習支援 28件
（内、併設型6件）

※各区毎に五十音順で掲載



緑区

1 学 大島学習教室
県営大島団地集会所

2 食 くすのき食堂
学 くすのき学習塾
市営上九沢団地多目的室

3 学 相模原みのり塾
橋本公民館 他

4 食 ソレイユにこにこ食堂
ソレイユさがみ

5 食 津久井子ども食堂
津久井中央公民館

6 食 マリ・いこいの家
東橋本3-16-8-103号室

7 学 宮上学習室
宮上児童館

中央区

1 食 「あいおい」みんなの食堂
相生3-9-23
生活クラブ相模原センター会議室2階

2 学 S. I. C. 無料学習教室
(Sagamihara International Class)
清新公民館

3 食 おかげさんこども食堂
淵野辺3-9-17
おかげさんLunch&Diningroom

4 食 上溝にこにこ子ども食堂
上溝公民館

5 食 子ども食堂からしだね勉強会
学 からしだね勉強会
氷川町8-16
コミュニティ・カフェ・エクレシア

6 食 子ども食堂ちゃお！
学 中央公民館

7 学 子ども立ち寄り学び処横山
横山団地第1集会所

8 学 こども広場ウェルカム
千代田4丁目自治会館

9 学 相模原学びの森
相模原6-20-1
にしもぐらホール

10 学 さがみはら みらい塾
矢部4-4-9
デジタルコンテンツ研究会
矢部研修所

11 食 相模原ライズこども食堂
淵野辺3-4-20 散歩道2階

12 食 だれでも食堂
学 フルーツポンチ
小山公民館

13 食 西門こどもレストラン
相模原6-24-5 喫茶室ノスタルジー

14 食 ノヴィーニェこども食堂
学 ＆こども寺子屋
相模原5-11-3 ノヴィーニェ・ホール

15 学 はやぶさ学習塾
横山二丁目自治会館

16 食 富士見みんなのこども食堂
富士見6-13-19 やきとり食堂一炭

17 学 ふちのべ学習教室
さがみはら国際交流ラウンジ

18 学 淵野辺つばめ塾
大野北公民館、(株)カキザワ工務店

19 食 ぶらっとこどもクッキング
上溝6-2-16

20 学 星1寺小屋
星が丘2-5-20東宮ハイツ1階

21 食 みたけ子ども食堂
下九沢980
特別養護老人ホームみたけ

22 食 みんなの居場所
ようこうだいパプリカ
陽光台公民館

23 食 みんなの食堂ふじみ
中央公民館

24 食 みんなよっといで！たな食堂
田名公民館

南区

移 食 移動式子ども食堂
市内各地

1 食 あさみぞふれあい夢広場
麻溝公民館

2 食 あさみぞみんなのコミュニティ
下原公会堂

3 食 新磯みんなの食堂さくら
新戸2479 久保田宅

4 食 あんチョコミックス［大野台］
大野台公民館

5 食 あんチョコミックス［大野中］
大野中公民館

6 食 お母さんたちのしゃべり場・昼ごはん付き
南台6-4-2 三・一教会内

7 学 おひさま学級
ユニコムプラザさがみはら

8 食 くぬぎこども食堂
東林公民館

9 食 子ども食堂peco
ユニコムプラザさがみはら

10 学 相模原南児童ホーム無料学習会
新戸905-1

11 学 ＣＥＭＬＡ
相模女子大学内
CEMLA(セムラ)ルーム

12 食 そらいろ子ども食堂
相模台5-10-5
さがみのキリスト教会

13 学 食 てらこや食堂ラッキーズ
相模大野6-15-27

14 食 なごみこども食堂
松が枝町2-7
湘興コーポレーション

15 食 にこカフェ
東大沼3-29-47-1
相模原すみれ園

16 食 ひばり食堂
大野南公民館

17 食 ひよここども食堂
相武台団地商店街6号店舗

18 食 ぴよにわ子ども食堂
ユニコムプラザさがみはら

19 学 双葉小学校区学習支援センター
御園南自治会館

20 学 みその生活支援クリニックの学習ルーム
御園4-15-10

21 学 無料塾ひばり学校大野校
大野南公民館

22 学 無料塾ひばり学校相武台校
相武台公民館

23 学 無料塾ひばり学校東林間校
東林間児童館

24 学 楽らくキッズ
相模台1-15
サポートセンター楽らく

25 学 若草小学校区学習支援センター
溝上自治会館

子どもの居場所運営者座談会
市内で活動中の若者に聞きました！

本当は3人の学生さんに集まっていただきお話をお聞きしたかったのですが、Zoomを使ったオンラインの座談会になりました。［2021年2月上旬開催］

ボランティア活動に一歩踏み出した、その最初のきっかけを教えてもらえますか

栗山――自分の高校は校則が特になくて、みんな入学するとすぐにバイトをするんですが、「バイトじゃなくて好きなことをやれ」という父のアドバイスもあって。子どもが好きで、将来子どもに関わる仕事がしたいなと思っていたので、近所のボランティアを探しました。でも最初は「面白そう」とかはなくて。「なんかめんどくさいけど、まあやってみようかな」くらいでしたね。実際に行ってみたら楽しかったし、自分が助けられたみたいな部分もあったので、続けて行こうと。

市村――自分も、大学に入るまではボランティア活動はハードルが高かったですね。でも、ボランティアサークルっていうのがあるんだと知って、そこからはすんなりと参加できました。サークルがあると、ひとつハードルは下がるし、大きなきっかけになると思います。

山角――僕も、大学2年で専門を選ぶときに、福祉をやってみようと思ったのが最初のきっかけです。児童養護施設の勉強合宿に付いて行くカリキュラムがあって、子どもたちと関わると楽しいし、そういうボランティアがあるんだと知って。その後、週1回の学習ボランティアに誘っていただいて、子どもたちもぜひ来て欲しいと言ってくれたので、じゃあやるかと。ひとりではなく友達も一緒だったので、やりやすかったかなと思いますね。

活動する前に持っていたイメージと、実際に活動してみて、どうでしたか

栗山――最初は堅苦しいイメージがあったのと、自分のこともちゃんとできてないのに、人を助けるなんてできるのかなって。正直に言っちゃうと、一番はめんどくさいと思ってました（笑）今振り返ると、いろんな新しい世界を知れたので、楽しいだけじゃなくてもっと知りたいという気持ちが生まれて、今も続けています。

市村――自分もいろいろルールが決まっているイメージがあったんですけど。実際に活動してみて、「あ、けっこう自由がきくんだな」と思いましたね。例えば、今はコロナで子ども食堂はできないけど、その代わりにお菓子を配ったり、柔軟に対応できるんだと感じました。

山角――児童養護施設での活動は、単純に楽しかった。子どもに喜んでもらえるし、勉強を教えたりするのがすごく好きなので…だからこそ『おひさま』を始めたんですけど…実際にやってみて、すごく難しいなと。友人と2人で始めて、高校生や大学生にもボランティアに来てもらってる中で、お互いに思っていることが違うことがある。みんなボランティアなので、なかなか時間やお金を割けない中で、どうやって方向性を決めて進めて行くのかが課題ですね。今はコロナでお休み中なので、また始まったら向き合わなくちゃいけない（苦笑）。それでも、やっぱり子どもが来てくれると楽しいし、喜んでもらえるのは嬉しいし。それが原動力となって、こういった課題もクリアして行けると良いなと思ってます。↗

相模原学びの森
栗山多聞さん（高校2年）

高校に入ってから、地元の子ども食堂でボランティアをしたり、ボランティアのイベントに参加したりしました。その後、『相模原学びの森』という小学生向けの学習支援の場を立ち上げましたが、新型コロナの影響でスタートができず、実際に活動が始まったのは去年の夏休みからです。

おひさま

→ お二人は、団体構成とか違うと思うんですけど、どんな感じでやっているか教えてもらえたら嬉しいです。

栗山――うちは、僕を主体に巻き込む形。最初に自分が「やりたい」と言って友達を2人誘って始めたので、しっかりしたメンバーと言うよりは、子どもに教えたい人を募って、僕が「こうしたい」という事に対して協力してもらっている感じです。

市村――『peco』は、北里大学のサークルが主で活動していて、相模女子大学のゼミに食事の献立作りや調理指導をお任せしています。当日は、みんなで分担して子どもと一緒に「これ作って、あれ作って」とやってます。包丁を使っている子の近くを走ったら危ないとか、食中毒とか、今だとコロナ対策とか…そういった運営上の問題は日々出て来るので、毎回、活動終了後に反省会をやって、子どもたちからこういう意見があったから次はこうしようとか、危険なことがあったらその対策をどうしようとかやってますね。

山角――なるほど…意思決定の仕組みとか、ちゃんと反省会をやるとか決まっているのは良いですね。友人同士だとお互い言いづらいみたいなこともあるし。栗山さんのように「僕が中心です」ってなれば、「じゃ、最終的には決めてね」ってなるのかな。とても参考になります、ありがとうございます。

コロナ禍で、それぞれの活動にどんな影響がありましたか

栗山――『学びの森』は活動が開始できなくて…学校もリモート授業になり、「課外活動は自粛」と言われてしまって。緊急事態宣言が終わり、学校が始まって、夏休みになって、やっと始められたって感じですね。

市村――『peco』も会場が使えなかったので。この2月から活動を始めようとしたら、また緊急事態宣言が出てしまって。食堂が開催できない中で、11月にはお菓子を配ったんですけど参加者が少なくて残念でした。この日にやるよっていう情報が届かなかったのと、時間帯もいつもと違ったのもあるのか…。この時はサークルの新メンバーがたくさん参加したいと言ってくれたんですけど、会場の人数制限があるので全員の受入れは難しくて。次の活動でと言ってたんですが、結果的に次の活動ができていないですね。

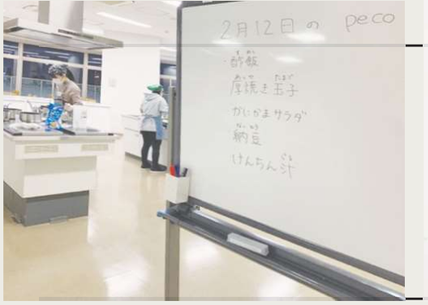
山角――『おひさま』も会場が閉鎖してるので、今も休止中です。人数制限とかのルールに従うのは当たり前なので仕方ない。その上で、活動再開に向けてちゃんと勉強して、それを生かしたいですね。コロナウイルスが出てから今までで、医学的知見なども蓄積されているので、どこまで対策をするべきか、換気や消毒などをどうするのか。ちゃんとやってますよというアピールをすることで、周囲に安心してもらえたり、社会的な価値を見出していただけるようにと思ってます。

子ども食堂peco
市村広希さん（大学3年）

大学に入学後、たくさんのボランティアサークルがある中で、子どもと触れ合える、料理ができるという点に惹かれて、子ども食堂のサークルに入りました。今は代表をしていますが、「孤食」「貧困」「ひとり親」などの問題が見えて来て、実際に活動してわかることがあると実感しています。

おひさま
山角直史さん（大学院）

大学で社会福祉を学び、社会福祉士を取得しました。座間市社会福祉協議会でボランティアセンターや子ども食堂支援などを担当していましたが、退職して大学院生になるタイミングで、「実際にやってみないとわからないことがある」と感じていたこともあり、友人と2人で『おひさま』を始めました。



子ども食堂peco

コロナによって新しく始めたことや、新たに見えて来た課題はありますか

市村――『peco』は去年の2月頃から、子どもたちのために何かできないかということで、メンバー4人が交代でブログを毎週更新していました。最初はボランティアのプロフィール紹介で、その後は食にまつわるクイズを。Twitterで反応があったり、11月に来てくれた子が「ブログ見てたよ」と言ってくれてすごい嬉しかったですね。「やってて良かった！」と思いました。

山角――『おひさま』はHPとLINEを使ってますが、今は特に更新していなくて…ちょっと見習って何かしないと(笑)。オンラインは会場に来られない子にもチャンスが広がるけれど、対面の良さを追及して行きたいという思いもあって。これから先も、コロナの影響で会場の人数制限などが続くと思うので、広報をどこまでするのかという課題はありますね。

栗山――『学びの森』は、2月からオンライン開催を始めました。まだ1回だけですが、Zoomで会場から配信できるらしいので、緊急事態宣言が明けたらどっちでも参加できるように。僕のところはまだ参加者が少ないので、申込フォームでどういうきっかけかを聞いて、これから参加者を増やして行くヒントにしたいなって思ってます。

市村――子ども食堂は、事前の申込みではなく当日来た子が参加できるので、こちらから「この日にやるよ」という情報が届けられない。子どもたちに対して、どう情報発信をしたら良いのかが課題ですね。

山角――LINEはすごく使いやすいけど、広く告知したいとか、ボランティアに来ませんか？というツールとしてはいまひとつ。あと、Twitterって同じ活動をしている方とか、関心のある大人が見ているイメージが強いんですけど、どうですか？子どもたちは何を見てるのかな…？

市村――確かにTwitterの反応は社会人とか、同じ様なボランティアしたいという大学生がメインですね。小学生は、たぶん見てないような気がします。

栗山――うちも参加者がまだ少ないので、そこはわからないんですけど…12月の情報交換会で、ボランティアがとても多い団体もあるって聞いたので、ボランティア募集ではTwitterは強いのかも。SNS以外では、近くの小学校2校にチラシを全校配布してもらって、それを見て5人申し込んでくれたんですけど、ちょうどそこからコロナで休止になってしまって…。

山角――うちも近隣小学校2校にチラシの掲示をしてもらったけど、そこからの申込はゼロでした。今来てる子は、別のチラシと口コミの半々で「勉強を教えてもらえるから良い」と言ってくれるので、少しは役に立っているのかな。小学校を訪問した時に、先生から個別アプローチは難しいとうかがって。社協に学校との間に入ってもらって、本当に必要な子に情報を届けてくださるとすごくありがたいですね。ボランティアや一民間グループが学校に行っても、信頼性とか特別扱いはできないとかあるので、そこはうまく連携できたら良いなと感じています。

相模原学びの森

今後の目標や目指すべき姿についてはどのように考えていますか

栗山――自分の団体のテーマとしては「居場所」なので、もっと気軽に来てもらえるような場所にしたいなと思っています。今は月2回なので週1回くらいにはして行きたい。地元の子ども食堂の活動では、経済的に困ってるんじゃなくて、学校の生活とかで困っている子の方が多かったので、誰でも参加できる、楽しめる形であるのがいいと思っています。

市村――子ども食堂は、「孤食」「貧困」「ひとり親」とかをターゲットに、みんなで食事する場を提供することで、そういう問題が少しでも緩和できる場だと思うんですけど…。子ども食堂は根本的な解決にはならない、あくまでもプラスαの支援であって、国の支援などが行き届く方が良いのかなと。ただ、そういう子だけが来ているわけではなくて、放課後に遊びに来てくれる、楽しみに来てくれる子が大多数なので、そういう子たちのためにも、子どもの居場所は必要だと思います。

山角――将来的に、子どもの居場所が地域にとって「当たり前になる」という事だと思っています。それには二つあって、一つは「どんな子どもにとっても当たり前に参加できる場所」で、市村さんの言うような課題を抱える子であっても行けるように。そのためには近くにないといけないし、ある程度の頻度も必要です。『おひさま』もその一助になればと思います。もう一つが、「誰もが当たり前に社会参加、社会貢献ができる」という事。子どもの貧困が7人に1人という時代で、それを何とかしたいと思っている人も少なくない。ボランティアで参加したり、寄付や食材支援、知見を提供するとか、いろいろな形で参加できるという役割も、子どもの居場所にはあると思います。そういう意味で活用がどんどん拡がって行って、日本社会に「当たり前にあるもの」となれば良いなと思います。

これから活動を始めたい、立ち上げたいという同世代に向けて、ひとことお願いします！

栗山――たぶん、自分と同じで「めんどくさい」とか「堅苦しい」とかが多いと思うんですけど、実際やってみたらそんなことないって言うのと、助けるとか手伝うと言うよりは、助けられたって言うのがあるので。「とりあえずやってみる」って言うのが大事かなって思いました。

市村――これから始めたい方だったら、今はSNSとかボランティア専門サイトもあるので昔よりは情報が仕入れやすくなっているし、参加のチャンスが身近になっていると思うので、始めることに対してそんなに身構えることはなくて。何となくでもいいから、とりあえず参加だけでもしてみて欲しいと思います。立上げに関しては、まずは参加して実際の空気を味わって、そこから実際にやっている人や詳しい人に話を聞いたり、ノウハウを蓄積してからが良いのかなと思います。

栗山――市村さんの話を聞いて思い出したんですが、「カタリ場」とか「ディスカバ！」っていうのがあるんです。ボランティアに限らずやりたいことを支援してくれるので、自分も参加してて、アドバイスとか応援をしてもらってます。学生限定になってしまうけど、そういうのに参加するのも良いと思います。

山角――僕の世代は社会人や大学院生で、それなりに忙しいと思うんですけど、忙しい人がボランティアに関われないかと言うと、そんなことはないよ、と言いたいです。社会に関わる機会はいくらでもあるし、寄付という形でも、それこそ子ども食堂の情報を拡散するだけでも良い。時間が限られているので、学生と同じようにはできないけれど、探せばできることがあると思います。子どもたちと関われる場所に来ると楽しいよ、と知ってもらえたら良いですね。

※「カタリ場」とは、主に高校生の進路意欲を高めるために行われる、キャリア教育・学習のプログラム。授業を担うのは、大学生や専門学校生などボランティア・スタッフ。認定NPO法人カタリバが運営。

※「ディスカバ！」とは、桜美林大学が主催する高校生のためのキャリア支援プログラム。学校では学ぶことができない、これから社会へ羽ばたいていくために必要な体験や出会い、新しい自分を見つける学びの場を提供します。

コロナに負けるな！
今、できることを探して

コロナ禍においても「今、できること」を探し、工夫しながら新たな取組みを始めた団体も…その活動の一部をご紹介します。

寄付された野菜やお米、食品などを配るフードパントリーと呼ばれる活動。屋外で配る、事前予約制にする、開催時間を短くなど、密にならない工夫をしながら。企業や市民からの寄付も増えています。

「あいおい」みんなの食堂
（中央区相生）

お母さんたちのしゃべり場（南区相模台）

みんなで食べることはできないけれど、栄養＆愛情たっぷりのお料理を子どもたちに食べてほしい！との想いからお弁当配布に切り替えた子ども食堂も。調理できる場所がなく、休止せざるを得ない団体も多くありました。

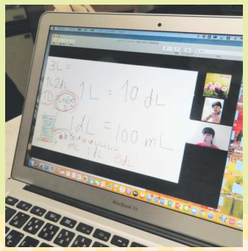
新磯みんなの食堂さくら（南区新磯）

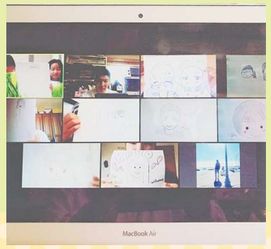
みんなよっといで！たな食堂（中央区田名）

くすのき広場（緑区上九沢）

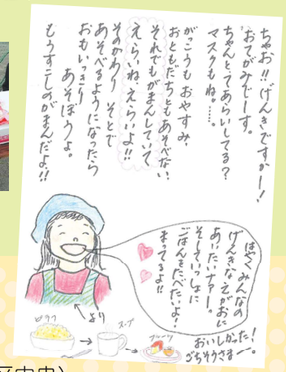
あさみぞみんなのコミュニティ（南区麻溝）
フードパントリーとお弁当配布を同時開催

会えなくてもつながり続ける！…子ども達とのつながりを途絶えさせないためのあれこれ。





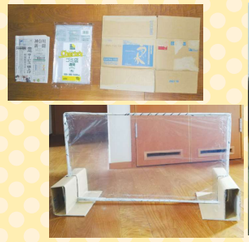
こども広場ウェルカム（中央区千代田）
大学生によるオンラインを活用した遊びと学びの支援



こども食堂ちゃお！（中央区中央）
ボランティアさんからの手紙を食品と共にお届け

独自の工夫で感染予防対策をしながら活動…当初は物品も情報も不足し、まさに手探りの活動でした。

屋外・短時間・少人数で卒業のお祝い（2020年3月）



身近な材料でパーテーションを手作り
相模原みのり塾（緑区橋本）

相模原市の子どもの居場所づくりを応援してくださる企業・団体の一部をご紹介します！

- 株式会社オギノパン（様々な種類のパンを提供）
- 株式会社GROSEBAL［グローズバル］（加工過程で出るお肉を提供）
- 株式会社パンパティ（様々な種類のパンを提供）
- 株式会社服部架設工業（企業農園で採れた様々な新鮮野菜を提供）
- 有限会社セ・ラ・セゾン（高級フルーツ缶詰を提供）
- メトロキャッシュアンドキャリージャパン株式会社（業務用の缶詰を提供）
- 公益社団法人フードバンクかながわ（県域で活動するフードバンク団体）
- フードコミュニティ（相模原市で活動するフードバンク団体）

上記以外にも、個人やグループの皆様からの寄付や支援のお申し出も年々増えています。
また、担い手として活動してくださる方や、会場の提供、チラシの掲示、SNS等による情報発信のお手伝いなども大歓迎です。

相模原市社会福祉協議会では、子どもの居場所づくりを応援する助成事業を実施しています！
「子ども健やか育成事業」…子どもの居場所づくりを行う市民活動団体を応援する助成事業として、平成29年度にスタートし、令和2年度は27団体に助成を行いました。助成金の財源は、市民の皆様からの寄付をもとに創設した、「子ども健やか育成基金」です。皆様からのご支援をお待ちしています。

詳細は、裏表紙の『子どもの居場所総合相談窓口』までお気軽にお問い合わせ下さい